

郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの新しい利活用の展開

久世 均（岐阜女子大学）

本学では、知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという岐阜女子大学独自の「知的創造サイクル」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確認するために、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業で「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備」を行った。その中では、地域資源デジタルアーカイブを地域の課題の解決のためのデジタルサイネージへの新しい利活用への展開をした。

これらの成果は、具体的には、2019年7月より中部国際空港の国内線6番ゲートで、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブを利活用したデジタルサイネージを展示し、郡上市の白山文化博物館でも、郡上白山文化遺産デジタルアーカイブを利活用したデジタルサイネージを展示している。

（1）郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブと観光資源の発掘

郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブ文化的伝統の収集と調査・建造物、建築物群の歴史的な価値の調査・白山信仰の三馬場の調査）において「知的創造サイクル」を構成し、地域の活性化の支援をした。特に、郡上白山文化遺産のデジタルアーカイブでは、文化的伝統の収集と調査・建造物、建築物群の歴史的な価値の調査・白山信仰の三馬場の調査において「知的創造サイクル」を構成し、地域の観光資源の発掘を行った。

（2）知的創造サイクル

「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備」では、リアルタイムに情報を更新する「知的創造サイクル」を用いて地域課題の解決に取り組み、人材養成に適したカリキュラムと教材テキストの開発を行った。

2006年2月に知的創造サイクル専門調査会において、「知的創造サイクルに関する重点課題の推進方策」を策定し、知的創造サイクルの戦略的な展開のための具体的方策を提言した。

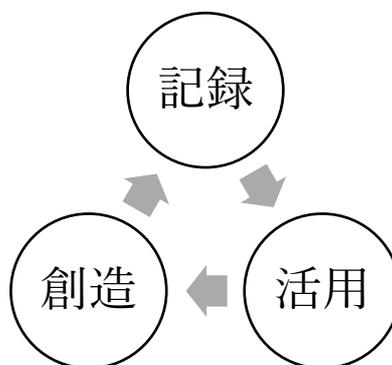


図1 知的創造サイクル

この「知的創造サイクル」は、図1に示す記録→活用→創造という循環サイクルのことをいい、これをデジタルアーカイブのサイクルとして捉えると、収集・保存した情報を活用・評価することにより、新たな情報を創り出すというサイクルとして捉えることができる。そこで、この知的創造サイクルをデジタルアーカイブに捉え直し本事業を展開した。

本事業では、「知的創造サイクル」を具体的に地域課題に適用し、知的創造サイクルとしての大学や地域資源デジタルアーカイブの効果測定モデルの開発を試みた。このことにより、その地域資源デジタルアーカイブのオープン化と共にそのデータを有効的に活用し、新たな知を創造する「知的創造サイクル」を生かして地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出す手法を確立した。

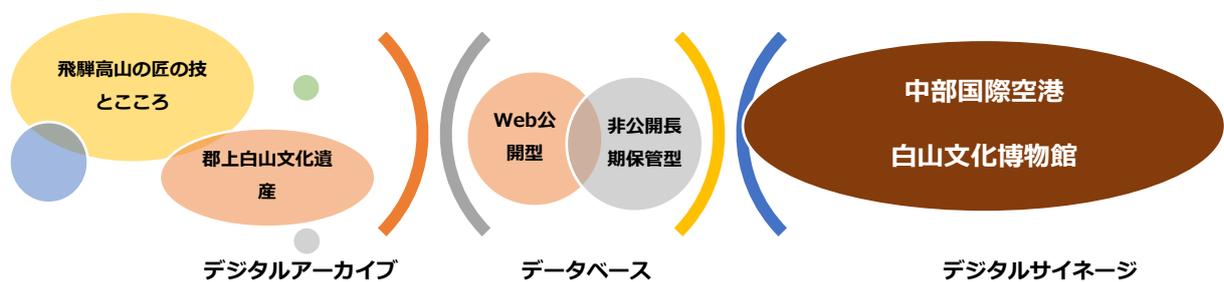


図2 デジタルアーカイブの新しい利活用の展開

(3) デジタルアーカイブの新しい利活用

本学においてデジタルアーカイブした郡上白山文化遺産データベースが、7万件近い情報をデータベースになった。この地域資源デジタルアーカイブを教育・観光に活用するために、デジタルサイネージへの展開を考えた。

デジタルサイネージは、一般に「サイネージ」と呼ばれ、「電子看板」、「電子広告」などとも呼ばれている。

主な用途としては、紙に代わる新しい情報伝達媒体として利用されており、画像や動画などデジタルコンテンツとディスプレイを組み合わせ、紙のポスターやお知らせを置き換えて使われることが多い。

今回、写真に示すように郡上白山文化遺産デジタルアーカイブの7万点の情報から新たにデジタルコンテンツを創造し、知的創造サイクルのプロセスを実践し、現在、郡上市の白山文化博物館に展示している。

詳しくは、<http://digitalarchiveproject.jp/>

